

科目名	アジャイル開発を成功させる組織マネジメント
担当講師	居駒 幹夫
分類	選択
授業時間数（時間）	7.5
授業形態	対面講義
授業の概要	DXを実現するための鍵の一つであるアジャイル開発を成功するためには、開発者、開発部署のみの活動だけではなく、企業レベルの組織的な取り組みが必要不可欠である。本科目は、組織の仕掛けとして学習をとらえ知識や文化の変革や創造を扱う組織学習論をベースとして、日本で普及が遅れているアジャイル開発の組織への適用を題材に組織の変革を実現する方法について学ぶ。受講者一人一人が自分の関連する組織でどのように、アジャイル開発に代表されるような新しい技術を取り入れ、結果として、組織構造や文化をより発展させることができるかをケースを題材にグループワークで学ぶ。☑
特色とメリット	経営学や社会学の方法論を用いて、ITの新しい方法を組織に適用するコンピテンシーを身につけることを目指します。
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織学習論での主要なモデルや考え方を説明できる。</li> <li>・DXで、ビジネスに価値を組み込むためにアジャイル開発が有用な理由を説明できる。</li> <li>・アジャイル開発を組織内で適用を開始するときの問題点とそれに対応した施策を計画し、ステークホルダーに説明できる。</li> </ul>
内容	<p>【イントロダクション】 DXとアジャイル開発の関係。日本の組織での問題の本質。</p> <p>【組織学習論】 経営学での組織学習論。「学習する組織」「知的創造企業」「ティール組織」等</p> <p>【アジャイル開発の概要】 アジャイル開発の概要の復習（ある程度、事前を知っていることを前提にする）</p> <p>【ケーススタディ1】 アジャイル開発の適用の失敗事例を題材に、グループワークで、何が失敗の原因かを議論する。</p> <p>【ケーススタディ2】 アジャイルを導入しようとする組織のメンバとして、どのように組織を変革していくべきかを議論する。</p>
受講の前提条件	特に無し
事前学習	特に無し
事後学習	特に無し
参考文献・オンライン科目	<p>ピーター・M・センゲ「学習する組織 システム思考で未来を創造する」</p> <p>野中郁二郎、竹内弘高「知識創造企業」</p> <p>居駒幹夫、梯正人「アジャイル開発のプロジェクトマネジメントと品質マネジメント: 58の Q&amp;Aで学ぶ」</p> <p>J.Rasmusson「アジャイルサムライ 達人開発者への道」☑</p>